

令和7年度 県立水戸聾学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全・安心であたたかな学校 ○ 互いに認め合い、主体的に学び合い、そして高め合える学校 ○ 家庭・地域社会と連携し、子供の育ちを支える学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子の養育等で課題があったり、養育について悩んだりしている家庭には、スクールカウンセラーの指導を受けながら支援を行った。また、関係機関との連携が必要な家庭においても、関係機関と情報を共有しながら支援にあたれている。 ・昨年度後期にいじめアンケートの結果、2件を認定し、その後指導、経過を観察している。 ・各行事等においては児童生徒の主体性が発揮され、意欲的に取り組む姿が多く認められる。 ・児童・生徒による授業評価においても、「タブレットや電子黒板を使って、分かりやすく教えてくれる」とした回答が全ての学部で良好な評価を得ている。 ・聴覚障害教育支援センター、早期教育の支援体制の強化及びアセスメントに基づく指導助言の充実を図り、センター的機能としての役割を果たすことができた。 <p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを支える話し合いの体制の構築、言語力 	<p>1 安全・安心な学校生活の中で、健康で豊かな生活の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 安全管理及び安全教育の推進（施設の点検、防災意識の向上、各種対応訓練等） ② 発達段階に応じた基本的な生活習慣の確立（挨拶、生活リズム、時間管理等） ③ 他者を受容し認める心を育て、人権意識の高揚を図る。 ④ 養護教諭、栄養教諭と連携し健康教育や食育の一層の推進を図る。 	B
	<p>2 確かな学力を育む授業力の向上と専門性の継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 個々の実態把握を基に、指導の個別化と学習の個性化を図った指導の充実と「協働的な学び」を推進する。 ② 時代に合わせた学習スタイル（ICTの活用、プログラミング的思考等）の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組む。 ③ 聾教育の専門性を高める研修体制の充実と自己の強みを生かした指導の蓄積を図る。 	B
	<p>3 「自立と社会参加」にむけた教育活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 目標設定シートにより根拠を明確にした自立活動の指導を充実させる。（目標、内容の妥当性） ② 各部の系統性をふまえたキャリア教育を推進する。 ③ 自己理解を深め、主体的な進路選択を促す職業教育やシティズンシップ教育を充実させる。 ④ 地域資源を活用した学習活動（見学、実習等）の充実と共に地域との協働活動の推進を図る。 	B
	<p>4 聴覚に障害のある子ども達への理解啓発と共生社会への基盤作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制強化と理解啓発を推進する。 ② 各種相談支援（早期教育含む）等においてアセスメントに基づいた適切な指導助言に努める。 ③ 情報発信に努め、本校教育への理解促進を図る。 ④ 同窓会、聴覚障害者協会など当事者団体との連携に加え、小中高等学校、大学、地域社会等と連携した活動を推進していく。 	B

や思考力の育成（自立活動分野）に力を入れていく必要がある。 ・校務支援システムによる個別の指導計画を基に、分かりやすく丁寧な保護者説明を心掛ける。		5 服務規律の確保と望ましい働き方の推進	① 子どもの人権を尊重し、模範となる言動、振る舞いに一層努める。 ② 45時間以内の超過勤務の遵守を基本に、自身の家庭状況や自己の業務のバランスをとりながらも、互いに助け合う体制を作っていく。			B
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	・幼児児童生徒が安全に、安心して学べる環境作りに努める。	・いじめ調査アンケートの実施と分析、それに応じた指導 ・各教室の巡視、部主事等との情報共有		1-① 1-③	B	○いじめと認定した1件について対応し解消した。 ○校内巡視1日3回以上巡視し、各種改修工事も順調に終了した。部主事との情報共有も円滑に行えた。
教職員の育成及び指導・監督	・個々の教員が、ライフステージに応じた力量形成につながる支援を行う。	・法定研修受講者への積極的な指導・助言 ・各種研修、助言者等への積極的な推薦 ・新任部主事、分掌部長等との定期的意見聴取		2-① 2-② 2-③	B	○年次研修者の研究授業に全て出席し指導助言ができた。 ◇個々の主体的な研修について、さらに意識の向上を図っていく。
対外活動	・聴覚に障害のある子ども達についての理解啓発を促す。	・HPの充実（ブログ、資料等） ・学校運営協議会での「聾学校の在り方」に関する熟議 ・茨城大学、筑波技術大学との連携		4-① 4-③ 4-④	A	○学校ブログ、聴覚障害のある児童生徒への支援リーフレットも定期的に更新した。 ○学校運営協議会において、高等部生徒を交えて、今後の聾学校の在り方について協議を深めることができた。 ○出前授業、ボランティア受入等により、各大学との連携が強化された。
コンプライアンス確保	・人権意識を高め、同僚性の醸成により服務規律の確保に努める。	・本校独自のコンプライアンス便りの発行（月2回） ・チェックシートを活用した個別面談（目標設定面談・評価面談時） ・衛生委員会、企画会との連携による職員の勤務・健康状況の把握		5-①	B	○チェックシート活用によるコンプライアンス意識の醸成、企画会・衛生委員会での職員の情報共有が図られた。 ◇今年度、療養休暇者(長期)

					2名あり。今後も個々の状況に応じた教職員支援が必要である。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間の長い者への積極的な指導と業務変更 目的に応じた業務実施とスリム化をさらに推進 	5-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○月45時間以上、年間360時間以内については達成の見込である。教職員の意識の醸成は図られた。 ○メールでの保護者通知が定着した。 ◇行事及び運営方法の見直し改善を継続推進する。
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒に対する効果的なICT活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例集を作成し、効果的な活用事例の情報共有を図る。 個に応じた活用についても検討していく。 	2-②	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業では積極的な活用が見られた。自己評価アンケートにおいて児童生徒もICTを活用できているとした回答が多かった。 ◇ICTの活用事例は少しだが共有された。今後も個に応じた活用方法を検討していく。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない